



科学部 日本学生科学賞で入賞

中高生が対象の日本学生科学賞(読売新聞社主催)で、本校科学部が「全日本科学教育振興委員会賞」を受賞しました。生物や地学、物理などの研究について、全国から約6万7千点の応募があり、昨年12月の中央最終審査に中学、高校の20点ずつが進み、各賞が決まりました。

本校の研究は「岩石の密度と地質構造」。県内各地で採取した100点超の砂岩や泥岩の密度を計測し、考察と分析を行いました。生徒らは、「他の研究作品は面白いものばかりだったので、受賞できたことはうれしい。全て自分たちでやったことが評価されたのかも」と話した。田辺高校の入賞は、1977年度の第21回以来45年ぶりとなっています。



換気実験報告 (2年生の厚生委員が実験を行いました)

教室の大きさの1/10の模型を使い、スモークマシンで煙を充満させ、箱の中がきれいになる時間を測定しました。模型には対角の2カ所の天窗と1カ所のドアの部分を開けられるようにし、条件をかえて実験を行いました。↓実験結果

<実験結果>		
窓開	人が居なくなった時間	箱の中がきれいになった時間
1カ所開けた場合	6分 51秒	22分 33秒
対角の2カ所を開けた場合(半分)	2分 30秒	10分 44秒
対角の2カ所を開けた場合(全開)	1分 11秒	5分 00秒
対角の2カ所とドア1カ所を開けた場合	55秒	2分 30秒
対角の2カ所とドア1カ所を開けた場合	43秒	2分 20秒



【生徒感想】

- 1カ所窓を開けるだけで何もしてないときよりだいぶ早く空気の入れ換えができるので、窓は開けておくべきだなと思った。
- やっぱり換気をするのは大切なんだと改めて思いました。
- 開ける場所が多いほど箱内がきれいになる時間がかからなかった。天窗4カ所を開けるのが一番空気をきれいにすることができると考えた。

校内の風景

1月25日(水)

10年に一度の大寒波が紀南地方でも猛威を振るい、校庭も真っ白になりましたが、午後には晴れ間も見え、中庭には雪だるまが登場しました。

国際交流

・インド交流会 1月27日(金)

和歌山県の対日理解促進交流プログラムを活用したインド訪問団が本校を訪れ、交流会を実施しました。12月にはインドの高校とオンラインでの交流も実施しており、今回もその一環として行われました。



今回の訪問団には17歳の高校生から53歳の社会人までの日本語学習者ら19名が参加しており、本校2年F・G組のクラスの授業に参加し、お互いの発表や意見交換を通して交流を深めました。

・ペルー和歌山県人会との交流 1月28日(土)

本校SEEKER生徒3名と橋本高校の生徒3名がペルー和歌山県人会の方とオンライン交流会を実施しました。



交流会は、それぞれの自己紹介や学校・地域の紹介の後、ペルー和歌山県人会会員の一人が事前に収録した自宅の動画を使って、現地の暮らしについて話をいただきました。その後の質疑応答の時間では積極的に意見交換が行われ、有意義な交流となりました。

生徒らはスペイン語と英語での交流に緊張しながらも「英語での発表には満足できた。」「ペルーの生活様式や学校生活を知れて勉強になった。」と感想を述べていました。

二月の予定

- 1月31日(火)～2月3日(金) 2年 修学旅行
- 2日(木) 1年総探発表会
- 5日(日) 2年駿台模試
- 9日(木) 1, 2年進路LHR
- 11日(土) 2年公務員模試 1, 2年進学模試
- 14日(火) 学年末考査発表、学校運営協議会
- 15日(水) 社会人講話、
和大会社インフォマティクス学環講演
- 21日(火)～28日(火) 学年末考査
- 28日(火) 卒業式予定

